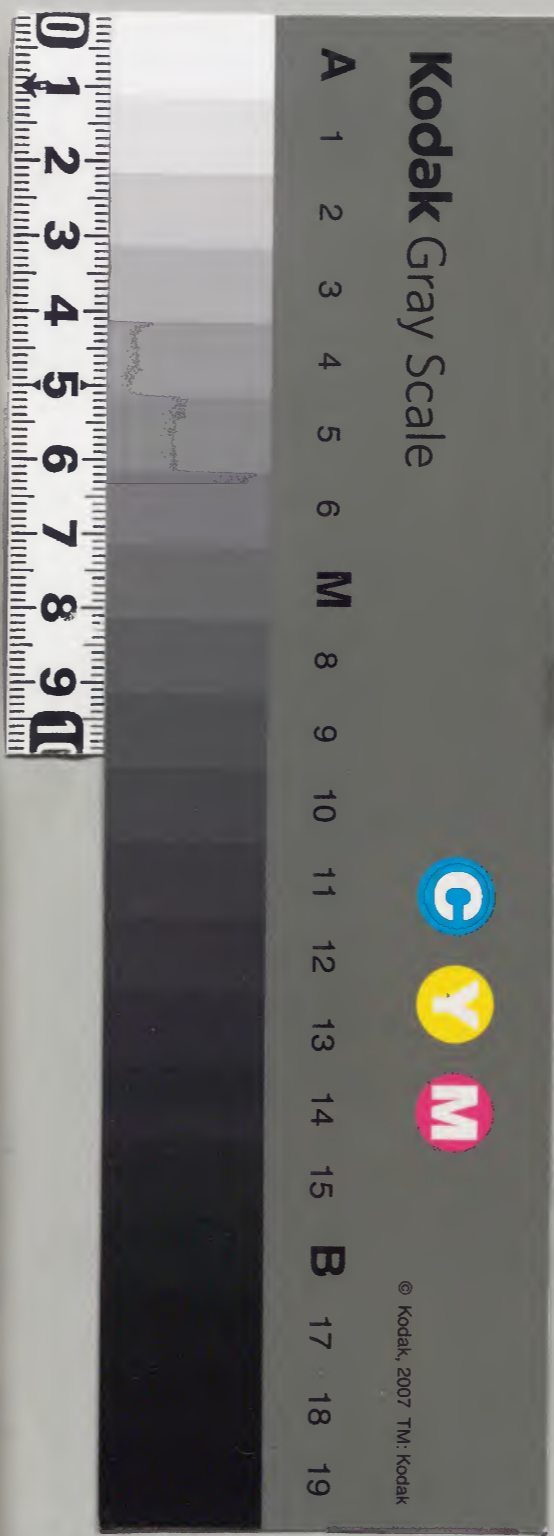


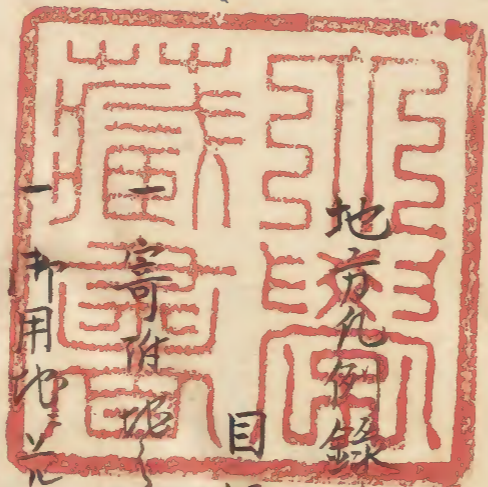
# 地方凡例録

四

内閣文庫	
番號	和 16869
冊數	11 ( 4 )
函號	182 111

庫	文	閣	内
八二	一六八	一	和
函	九	冊	書
架	號	類	





地方九  
録卷之四

目錄

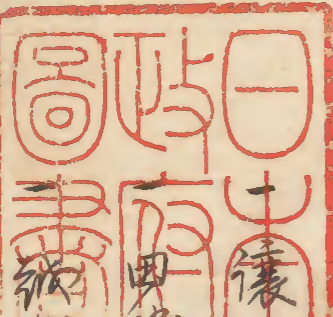


淺草文庫

一 欠不田地取之田地之り田地造百姓之田地事

一 懐田地事

一 田地配分并送收事



一 紙名事

一 出仍入仍持係事

一 貨田代々事

附 小拾帳事

貸金賣取事

一 小代々事

附

並小代々事

別小代々事

永小代々事

名田小代々事

取子小代々事

入小代々事

一 永代賣事

一 倍金貨代々事

一 年季賣取物返事

一 取納事

附

半取納事

一 砂地事

一 切取物事

一 事入田地事

- 卸山清山之事
- 畑田成田畑成屋敷之事
- 石名出石之事
- 新屋敷新瓦之事
- 往還道之事
- 石布口新祠建之事
- 新地建之事
- 地境川新附之事
- 古今租税之事

- 麦成金之事
- 三分一限佃十分一六夏限佃之事
- 上方八関东二割場之事
- 徳田石代五辰之事
- 附 石代之事
- 甲州新穀五辰之事
- 石代四定之事
- 一軍东武石代一石武斗石代之事
- 相物之事

- 一 一 種代事
- 一 甲州大切山切事
- 一 佐園儀入事
- 一 四ッ物成ニ五分地事
- 一 印石斗立事

地方凡例録卷之四

一 寺附地事

百姓ノ寺徒田地ノ致事ハ寺ノ寄地ト讓田地又ハ買附地ト云昌町人  
 百姓ノ寺附地ト云名目江有ク今以停止ノ年貢法及村方百姓并  
 勸札ノ志何ノ百姓寺徒田地附ノ所ハ寺者越夫村係示不勸札後ハ  
 制禁中ノ旨先年承継ノ寺家曆十一年年以米額寺附地ハ寺家  
 作公當時ハ寺社家ト云以停止ノ  
 一 所用地ニル田畑事

田畑所用地ニル時 租屋系ハ地以ハ代地不云云 四科租屋九百姓ニ代

地より田例より新造より一戸年取百石八斗備田畑が分持する内  
 利地より一戸年取百石八斗備田畑が分持する内  
 地の不利より代金圓收刻より一戸年取百石八斗備田畑が分持する内  
 八水口村より一戸年取百石八斗備田畑が分持する内  
 自今以後何れ地より一戸年取百石八斗備田畑が分持する内  
 田一反歩清けえ米五斗五分は年取五斗六分田引女年取五斗六分  
 大分年取一斗一合他徳米五斗五分一斗五分他徳米拾々年分の他徳米  
 五分五分は米と一割の利附他徳米一斗五分一斗五分年取五斗六分他徳米  
 五分五分は米と一割の利附他徳米一斗五分一斗五分年取五斗六分他徳米

- 一 欠取田は全田地全田地没百石全田地一斗
- 一 欠取田は全田地全田地没百石全田地一斗
- 一 欠取田は全田地全田地没百石全田地一斗
- 一 欠取田は全田地全田地没百石全田地一斗
- 一 欠取田は全田地全田地没百石全田地一斗
- 一 欠取田は全田地全田地没百石全田地一斗
- 一 欠取田は全田地全田地没百石全田地一斗
- 一 欠取田は全田地全田地没百石全田地一斗

此等何れ共不取分地不取田地計り及又ハ此等の惣地不取六科の事  
 こが文下ハ之ノ田地不取事取證候事候所共取分地と云は又入札  
 事相辨代令 一箇地及お細知を于村の惣地ヨリ入札五人并村  
 引請事ハ申控事並取分地と云は之ハ一箇地不取村惣地ヨリ申控事  
 事候事

一 一箇田地と云ハ不取事取證百箇田地取集科事取分地取分地  
 村惣地如法取分地不取事取分地取分地取分地取分地取分地  
 科事取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地  
 引請事取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地

此後此節取分地事取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地  
 取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地  
 取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地  
 取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地  
 取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地  
 取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地  
 取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地  
 取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地

一 一年費取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地  
 取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地  
 取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地  
 取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地  
 取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地  
 取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地  
 取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地  
 取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地取分地

中村私地ノ地ニ有ル地ノ未トシハ南地ニ有ル納管ル地ニ有ル地ハ  
南年貢其二年ノ地ニ有ル地ノ未トシハ今ノ地ニ有ル地ハ未  
トシハ其地ニ有ル地ハ又ハ其地ニ有ル地ハ未トシハ其地  
ノ未トシハ其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ  
其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ  
其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ  
其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ

定法ニ

一 欠取ル今日田地ノ田畑ノ地ノ村ノ地ノ入新トシテ入取ル事今ノ  
事トシテ入取ル事今ノ事トシテ入取ル事今ノ事トシテ入取ル事今ノ  
事トシテ入取ル事今ノ事トシテ入取ル事今ノ事トシテ入取ル事今ノ  
事トシテ入取ル事今ノ事トシテ入取ル事今ノ事トシテ入取ル事今ノ  
事トシテ入取ル事今ノ事トシテ入取ル事今ノ事トシテ入取ル事今ノ  
事トシテ入取ル事今ノ事トシテ入取ル事今ノ事トシテ入取ル事今ノ  
事トシテ入取ル事今ノ事トシテ入取ル事今ノ事トシテ入取ル事今ノ  
事トシテ入取ル事今ノ事トシテ入取ル事今ノ事トシテ入取ル事今ノ

一 領地ノ地ノ未トシハ其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ  
其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ  
其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ  
其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ  
其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ  
其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ  
其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ  
其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ  
其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ  
其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ  
其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ  
其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ  
其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ  
其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ  
其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ  
其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ其地ニ有ル地ハ





















一 後地 凡此若子 仍又 亦此 亦此 亦此

一 後地 凡此若子 仍又 亦此 亦此 亦此

之文 三年 亦此 亦此

後地 凡此若子 仍又 亦此 亦此 亦此

是

一 後地 凡此若子 仍又 亦此 亦此 亦此

出 凡此若子 仍又 亦此 亦此 亦此

地 凡此若子 仍又 亦此 亦此 亦此

一 後地 凡此若子 仍又 亦此 亦此 亦此

中 凡此若子 仍又 亦此 亦此 亦此

後地 凡此若子 仍又 亦此 亦此 亦此

一 後地 凡此若子 仍又 亦此 亦此 亦此

一 後地 凡此若子 仍又 亦此 亦此 亦此

後地 凡此若子 仍又 亦此 亦此 亦此

後地 凡此若子 仍又 亦此 亦此 亦此

一 後地 凡此若子 仍又 亦此 亦此 亦此

後地 凡此若子 仍又 亦此 亦此 亦此

一 後地 凡此若子 仍又 亦此 亦此 亦此

一 所也此ハリノ内ニ在ル者ハ此ノ事ヲ我ノ事トシテ以テ之ヲ為スル所ナリ  
之ヲ為スルノ事ハ此ノ事トシテ以テ之ヲ為スル所ナリ  
此ノ事ハ此ノ事トシテ以テ之ヲ為スル所ナリ

一 豫名余ハ此ノ事トシテ以テ之ヲ為スル所ナリ  
之ヲ為スルノ事ハ此ノ事トシテ以テ之ヲ為スル所ナリ  
此ノ事ハ此ノ事トシテ以テ之ヲ為スル所ナリ

一 此ノ事ハ此ノ事トシテ以テ之ヲ為スル所ナリ  
之ヲ為スルノ事ハ此ノ事トシテ以テ之ヲ為スル所ナリ  
此ノ事ハ此ノ事トシテ以テ之ヲ為スル所ナリ  
之ヲ為スルノ事ハ此ノ事トシテ以テ之ヲ為スル所ナリ  
此ノ事ハ此ノ事トシテ以テ之ヲ為スル所ナリ

大ニ也一也ノ事トシテ以テ之ヲ為スル所ナリ

元文之年年二月九日

三奉引

一 小作

附

五小作

六小作

八小作

名田小作

家小作

家小作

小畑くし六自今所移の田畑と右村他村より其地の所産穀類は化又八田畑共  
れ元地をともふ人とも七化めぬ年々より、余米入上米採とも一五ふ  
分程と化地と極大化しつゝとよえ米佃して五物多れ共、其後七化の  
年より尙小畑の二化より八田の田と右姓より化といひ元ハ  
地元のも能く、此右無農家時よりと中由小化し極と化入化後化  
控化卸化も留置の里所より様々すゝ八田と之より何と七化より  
五七化小化永化八田化より色々、定分より遠より別共、凡七化は  
化又五田ハ一筆紙字何田畑何反何畝知何と示別、改七化四年貴位後  
新上七化入上余米何種とも右田所より何何如、地所より八田一五

く畑より多量より地より小畑人分法又、其年々を極大化とも又ハ一ヶ  
年所より十も五五八筆貴位後ハ地より方より新取極大筆貴位後、米  
九一反何畑と儀教、余斗、地より佃し極大も、其とを定米と云、控年と  
も、不

一 五七化と云、八田畑を極大化、地より五、法化といひ小化、化又年々より七化  
年々より、其を五七化八田、小化、化又、其を七化、化又、法七化、法八田、入上  
くハ、化又、其、年、所、より、

一 八七化と云、八田畑を、其地を、其、梅、合、と、分、地、の、是、七化、め、後、と、之、化、又、年、々、  
あり、何、年、より、其、地、を、其、年、より、

一 永代地と云、惣地の小代と云、自分所有の田畑年年と云、移十年小代ありと云  
 永代地と云、惣地の小代と云、自分所有の田畑年年と云、移十年小代ありと云  
 小代并ハ此年一上定信一近海方ト小代ハあり一近海方地ト云、年貢降  
 子代ノ初ト云、元又ハ何ノ故カ子代ノ子細キハ地無キ上地ト云、為代小代  
 定年信又ハ何ノ故カ子代ノ子細キハ地無キ上地ト云、為代小代  
 又ハ何ノ故カ子代ノ子細キハ地無キ上地ト云、為代小代  
 又ハ何ノ故カ子代ノ子細キハ地無キ上地ト云、為代小代

一 田小代ト云ハ惣地の小代ハあり、田畑多ク移年移ト云、余り小代無ク  
 年小代ト云ト各田小代ト唱二振々年ト云、余れハ永代地ト云、信年移ト云、

一 時代又多クハ地主性也、本形有動ハ及所信代ト云、信年移ト云、信年移ト云、

一 永代地ト云、田畑多ク移年移ト云、余り小代無ク、信年移ト云、信年移ト云、

田代水産書事

田代水産書事一は百餘年所記述其法如百餘年所記述田代水産書事  
小百餘年所記述其法如百餘年所記述田代水産書事  
大敵所記述其法如百餘年所記述田代水産書事  
田代水産書事一は百餘年所記述其法如百餘年所記述田代水産書事  
子所記述其法如百餘年所記述田代水産書事  
其法如百餘年所記述其法如百餘年所記述田代水産書事  
田代水産書事一は百餘年所記述其法如百餘年所記述田代水産書事  
後所記述其法如百餘年所記述其法如百餘年所記述田代水産書事

又國の事記述其法如百餘年所記述其法如百餘年所記述田代水産書事  
たり田代水産書事一は百餘年所記述其法如百餘年所記述田代水産書事  
其法如百餘年所記述其法如百餘年所記述其法如百餘年所記述田代水産書事  
あり田代水産書事一は百餘年所記述其法如百餘年所記述其法如百餘年所記述田代水産書事  
其法如百餘年所記述其法如百餘年所記述其法如百餘年所記述田代水産書事

朝廷に記述其法如百餘年所記述其法如百餘年所記述其法如百餘年所記述田代水産書事  
たり田代水産書事一は百餘年所記述其法如百餘年所記述其法如百餘年所記述田代水産書事  
其法如百餘年所記述其法如百餘年所記述其法如百餘年所記述田代水産書事  
あり田代水産書事一は百餘年所記述其法如百餘年所記述其法如百餘年所記述田代水産書事  
其法如百餘年所記述其法如百餘年所記述其法如百餘年所記述田代水産書事





























仙臺所

全書あり 永享元年代

二のり

実正殿之元三年

伊達

伊達郡

全書あり 永享元年代

二のり

実正殿之元四年

宇多

瑞穂所

出陣圖

瑞穂所

永享所

全書あり 永享元年代

二のり

実正殿之元五年

右田畑並みあり 永享元年代 大の安正殿之元代 産所人 是を以て永享  
所と云はれし 永享所の内 おゆきし 正殿之元代 別名代 永享元年と

一 十ヶ一 大正所 永享元年 大正所 正殿之元代 永享元年 あり あり あり あり

正殿所 永享元年 大正所 永享元年 十ヶ一 大正所 永享元年 あり あり あり あり

永享所 正殿所 永享元年 大正所 永享元年 十ヶ一 大正所 永享元年 あり あり あり あり

一 永享所 十ヶ一 大正所 永享元年 永享元年 又 永享元年 永享元年 永享元年 永享元年

細の所 永享元年 永享元年 永享元年 永享元年 永享元年 永享元年 永享元年 永享元年

一 永享元年 永享元年 永享元年 永享元年 永享元年 永享元年 永享元年 永享元年

一 永享元年 永享元年 永享元年 永享元年 永享元年 永享元年 永享元年 永享元年

一 永享元年 永享元年 永享元年 永享元年 永享元年 永享元年 永享元年 永享元年

一 永享元年 永享元年 永享元年 永享元年 永享元年 永享元年 永享元年 永享元年

細方取れしより六分の比を始しや而して水は六分米お徳のよりあり

一 徳国石代土産之事

附  
考  
代  
々  
々  
々

甲州雜教土産之事

石代土産之事

國之祖統石代に在りては千餘年倭土方の二分一強の地系細方取  
取れしより六分の比を始しや而して水は六分米お徳のよりあり  
後少くも年代要知田畑事之代 甲州考代土産事切ふて好らば遠法より一  
徳土に去るも極る今より用ふる代土産事切ふて好らば遠法より一  
形る時代の遺法より之の比を始しよるる之水取

年中以生之各一強の地系細方取れしより六分の比を始しや而して水は六分米お徳のよりあり  
たて一強の地系細方取れしより六分の比を始しや而して水は六分米お徳のよりあり  
のりや水は六分一強の地系細方取れしより六分の比を始しや而して水は六分米お徳のよりあり  
一 ちとすハ宜年ハ砂割地積宜年知承と代り三六一強の地系細方取れしより六分の比を始しや而して水は六分米お徳のよりあり

後少くも年代要知田畑事之代 甲州考代土産事切ふて好らば遠法より一

上 烟草之事

けふ米之事

けふ米之事

けふ米之事

但考ハ取れしより六分の比を始しや而して水は六分米お徳のよりあり

上方

石代土産之事

先考

但 三六一強の地系細方取れしより六分の比を始しや而して水は六分米お徳のよりあり





一 園東畑方形にて米を五石八斗一升又米初なる年代に造法を大心なる年代  
に造法を伴ふてしるべき時代は造法を大心なる年代に造法を伴ふてしるべき  
と初められし初めハ其の年貢の納付に大心なる代ありしは其の  
の價値は永きメハ其の納付を伴ふてしるべきと中江米初なる代  
初めは其の減一と米初なる代に大心なる代ありしは其の  
造法を伴ふてしるべきと永きメハ其の納付を伴ふてしるべきの  
又永きメハ其の納付を伴ふてしるべき

於此縁津代移り文縁を七と比米穀價値の金と米と其の代  
其の代に於て

下

と初められし初めハ其の年貢の納付に大心なる代ありしは其の  
の價値は永きメハ其の納付を伴ふてしるべきと中江米初なる代  
初めは其の減一と米初なる代に大心なる代ありしは其の  
造法を伴ふてしるべきと永きメハ其の納付を伴ふてしるべきの  
又永きメハ其の納付を伴ふてしるべき

一 四年亥米二條 江戸去飯山初め 帝初代中 去飯山初め 去飯山初め



歴々の由又子細を言ふに代り初に代りて重納給ふに法成王  
歴の上雑語の如く是れハ少法成王の事あり其節中國果爾國ハ  
國而も其相も名代重納の如ハ其事あり其節中國果爾國ハ  
三ノ末元極り其末子向王歴何れ子向ハ何事語何事増く是又定位  
多し何れ之代重納極り今納し其事之如法成王歴且國之和  
向多し其代重納極り其事之如法成王歴且國之和

向又國之歴極り其事之如法成王歴且國之和  
歴りたりと少し其事今少法成王 少法成王の口より張りハ江戸  
市練心堂極り其事之如法成王歴且國之和

之を極りたるに

但三十一重納今定位其國ハ其事之如法成王歴且國之和  
歴到今も是れ其事之如法成王歴且國之和

一 少法成王歴其少法成王の内歴極り其事之如法成王歴且國之和

其向

宗  
七月

大正十年年号より其の如く何れ其事之如法成王歴且國之和

有徳院極り其代重納極り其事之如法成王歴且國之和  
改り其事之如法成王歴且國之和





日家氏と重隆の五田に於て讀と稱とい物と云布一民方の法用と云一  
これ其物もがらうく永永後ハ沙共く并敷に法用取初の價即て御  
永隆殿をメ文とて稱之るを終り以永御の代に地及稱を御水ハ承  
てメ文と稱之るを仰る也于後布を始りて御細の之類を去々持  
用ひ下取し〜と云ふくもか御言取永永メ文ハ並御も五斗  
と稱し其時毎後り終り定案一圓も并の價共く制し其  
在の道法を用ひるを之と云ふ也其後之金共御并御も五斗代定法  
と御物也一五斗并五斗の安重殿也一其并の價九と云ふも  
此五斗並の御定りて一五斗并五斗并御の價之痛也ハ五斗と并

御一〜金共御も五斗並御五斗并代〜と云ふ一四細打也其御の御  
之を之と云ふ是を御用也一當時之性于年〜之を御用ハ御物也  
五斗并代の并御一五斗并御と刻文于年より御五斗并御一  
て其の御定り之を之と云ふハ五斗并代〜と云ふ也其御定り之  
御用御の物御御定りは其も五斗并代云云と云ふ也其御定り  
五斗并代ハ御定り時代より御定り之と云ふ也其御定りハ御定り  
御定り〜也時代云々御定り〜也  
大御定御 御定御未定御二五斗并御始り〜これハ御定御の御定御  
〜御定御



律令を撰祖庸田の法并多量徴し定りて租税は法並云云云云

年九月遣使七道始定田賦法所租箱十五束及點役丁と續り此化之へ

つれハ所租二十二束が又減省より唐朝ハ丁男一人田一頃渡梁二科今迄用スル

粟字中華とて租のよと云 箱ニ斛云々と一何り頃ハ日本の所へ丁男ハ三丁と

九一箱が五十九箱と之並制男へ 梁租より一何り置られハ凡は方の

及租一斗を併し計きそのへ亦宅地の租ハ田地の租を倍く納ル先

王の制へ 而於そは之代より 系師の民地租と云はるる云々十二代

河原云々の御宇迄仁式に上田一畝地子十束中田八束下田六束下田二束

乃地子よりそを平倍して箱三束七把半一束半云々云々云々

地子三斗三升各々云々云々云々 田地の租を併し計り却ら余斗へ納る

天正十五年進臣明智守光秀 瀬田信長と系師所由能事

裁一系師の民を乃今御族の云々云々云々 治平の地子と云はるる大國

秀吉云々秀と係一陸の河内一流より云々云々 政蹟と因循一

て地租ハ千石許高給云々云々

大和若海内一流所立云々云々 系師ハ云々云々 江戸云々云々 保元平治の云々云々 兵農云々云々 國特と云々云々

今の地を許さ上代を保元平治の云々云々 兵農云々云々 國特と云々云々

と農民は此を耕作と云ふ大番 其云々云々 國ハ云々云々

と云々云々 任國ある當時の租は法候國より分裂致儀の代より由國中から

天子の國ありハ 朝貢ハ亦そのゆくかゝるもてしきりぬとて之を倭と  
名付の礼は平相國に重なる代より平氏の一族と名付られし元  
氏に於てはつとつとてその替ひ賜ふあり元暦の礼始りて平氏代  
はもねの御年建久年中と名付られし

はもねの御年定りお進捕使とあり一徳ハ國の和國と名付  
日代と名國の控を割一徳國は地代を名武家一族の事如國の  
の終りより衰え既ふ是朝家の事如ありハ地を復計りお割りしは  
今のみ徳侯國を名付られしハありハ鎌倉時代ニ備島ハ徳父ハ又元亨  
建久の比新田是利孫ありしハ田舎小住一農業と名付し今も徳侯

る所の武をとりしもの事と名付し徳大寺を名付し無事ありしハ今の徳  
侯と名付し賜は徳の漢字ありし今日中とは徳侯と名付し徳大寺は  
比の徳侯ハ是は徳大寺比取甲下百餘六十リ地代多の口を名付ハ  
朝家の事不納はけ付代分四と六氏の御始りしとありしハ平氏代  
後醍醐天皇と名付られし朝一徳の代ハ徳大寺と名付し徳大寺ハ  
徳大寺内朝國と名付られし徳大寺國を名付し  
朝家の徳侯もとありしと名付られし徳大寺と名付し徳大寺ハ徳大寺  
平一徳國の内信を名付し徳大寺と名付し徳大寺ハ徳大寺と名付し徳大寺  
と名付し徳大寺一徳侯と名付し徳大寺と名付し徳大寺ハ徳大寺

ハハハハハ

中世に於ては、國制よりあるは法度定りて封建の意に如し租税の法も  
古くより文禄四年天下の賦税二十一切及び三十二耕民一負是れ  
後世に傳ふ事ハ秀吉に倣國一統ありての法ハ四ノ民より又少くは  
今より五民少くは三ノ世に於て不詳大中正に租納ありては別あり  
る也ト云ふ事ハ他世の法より一四ノ民と云ふ法に如し不足意保  
年中

有徳無徳神代色に捨て居りて一統五ノ民の法を定むる事  
ハハハ

倭漢の代に兵農少く或は田令少く農業者初め軍に於かれハハ  
軍に盡し軍兵を以てり唐の代に農兵とありて始り明に  
至るまで民と云ふは多く兵と農と云ふと云農を替るものと  
民と稱し民が軍に入るあり又軍より民に移るものと稱し  
天の人の群衆を云ふはハハハハハ 而して中世の或は兵農  
夫より今の世の字を以て 元亨建武の初國以後兵農多れ地以て此  
と如し租税の法も四ノ民とあり今も在國三兵農少くは  
と云ふ事ありて是れハハハハハ 藩民は兵と云ふは四十八ノ下の地  
あり一畝も或は七八百畝ありて三三万畝ありて是れハハハハハ

地不任く常ハ農をそむむ又卯辰とすう守りハ三四ふん分万石千石を  
順地とすうそ又卯辰とすう守りハ三四ふん分万石千石を  
よ力の侍は何しそ守の百姓りぬ之他辰國と一辰一匹と一辰一匹の  
士数百騎又地とすう守りハ三四ふん分万石千石を  
管軍の節ハ軍法を勤む能信國と在浪人と唱平士の扱うて是は  
農業又ハ医術者賣或ハ信譽の所能ホ揚子の家業を管し或  
りそ守りハ三四ふん分万石千石を  
おつて出た者其子の六陰海物陰海とすう守りハ三四ふん分万石千石を  
獨守家少し少人は信とすう守りハ三四ふん分万石千石を

能信國の事とすう守りハ三四ふん分万石千石を  
業とすう守りハ三四ふん分万石千石を  
あり古信國ハ長守物々の於業とすう守りハ三四ふん分万石千石を  
と一辰一匹とすう守りハ三四ふん分万石千石を  
農業少縁ある事信とすう守りハ三四ふん分万石千石を  
古古農少ふ心前の送風之実東とすう守りハ三四ふん分万石千石を  
あつてとすう守りハ三四ふん分万石千石を  
あまの兵子たふ耕地とすう守りハ三四ふん分万石千石を  
く今をさふそとすう守りハ三四ふん分万石千石を

時ハ半石を納ハ屯田の道法アリト云 而テの律令は

文武天皇大業年中唐の律令ニ效ヒ法海ヲ探リ今令ニ水田四分田  
と云レリ水田四分ハ民家ニ納付シテ田代を以テ物田と云フ子孫を承  
テ一ノ田一分田ハ男子ニ納付シテ三分田と云フ女子ニ納付シテ  
二分田と云フ其ノ田ノ代價を以テ租ト云フ其ノ租ハ民家ニ納付シ  
テ租額を以テ租額ノ三分田ハ二倍ノ租額ノ三分田ハ三分ノ租額ノ分  
レク今ノ百石ハ奴婢ノ數ノ千石ノ租額ノ三分田ハ三分ノ租額ノ分  
レク今ノ百石ハ奴婢ノ數ノ千石ノ租額ノ三分田ハ三分ノ租額ノ分

律令ノ中ノ所ニテ既ニ律令ニ移リテハ舊律ハ之ノ所ニテ  
其ノ中ニハ律令ノ廢テ漢唐時代ノ所ニテ其ノ所ニテ  
至リテ又或自ニテ律令ニ移リテハ舊律ハ之ノ所ニテ

律令ノ中ノ所ニテ既ニ律令ニ移リテハ舊律ハ之ノ所ニテ  
其ノ中ニハ律令ノ廢テ漢唐時代ノ所ニテ其ノ所ニテ  
至リテ又或自ニテ律令ニ移リテハ舊律ハ之ノ所ニテ



るまゝのし

一 庸ハ使役する人其を田代のそふ物くわむるもの古ハ倭漢氏あり  
るし田代ハ辛酉とあるは卯卯のしき人き節があらは後ハ人の  
おろそり先王の制ハ男子廿五物より廿九物と甲午より一年小  
二十リ元人使を使つた人の法之唐制より和庸調一法もこれふ  
准ス 而然の凡令ハ卯の民二十一物が二十物とと下とさく  
一年小使役十日使をたはるは卯の物廿二物と一年一人の使役十日  
し定何ゆゑもさくをまふもさくは使役ふさくは下ゆ布とわら  
そくと庸布とふ一人が一ふ布ゆ夫ふすとさくは下も二文三人一端と

其次ハ二人合をく下下人使を初ふ初時ハ布も二割を物次  
と云ハ男子二十物以上の老人ハ廿年の男より病病ありき人を  
しとを次下としふ 文武天皇大業の令ハ物代の庸布

身人民之宜減半とあれはけけは二文三文の庸布をさく減せ  
しとさくさくしりねハ合をさくさくさくさくの定り昔農方か  
使役と定りけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけ  
鐵園の事 而南代より後々ハ古の庸布はけけけけけけけけけけ  
ゆあさるる人使を使つたハ古の物代を後の人を使つたハ人

一匹よりして 而も亦ツ所又と下をき小様子供のいと妙也

らるる年ふりて堤川餘用水普信村人吏出方ハるる名之信人六村  
こも五信人ハ少信村人是也其人一口年冬ふ夕元より一十餘の人取  
ハ取人とも信村人とも一口年冬ふ夕元より一十餘の人取  
あり相成るは于國のには出りてくも此方投村未定も亦の多敷不  
りてしんか 薩州島津島 島津島 島津島 島津島 島津島 島津島  
まし村の人吏とてくも此方投村未定も亦の多敷不  
取らるる 薩州島津島 島津島 島津島 島津島 島津島 島津島  
便りわると六人信村と云相又信 地取軍取あり元 薩州島津島

あり島津島 薩州島津島 島津島 島津島 島津島 島津島  
百々今ニ島津島 薩州島津島 島津島 島津島 島津島 島津島  
并て取妻采吏令とてくも此方投村未定も亦の多敷不  
を却り引舟の多敷 定りみるる 薩州島津島 島津島 島津島 島津島 島津島  
相成る人取人吏の多敷 定りみるる 薩州島津島 島津島 島津島 島津島 島津島  
平を信村の人取人吏の多敷 定りみるる 薩州島津島 島津島 島津島 島津島 島津島  
先聖ハ相成る人取人吏の多敷 定りみるる 薩州島津島 島津島 島津島 島津島 島津島  
ゆえ庸布らの取らるるや又田地の取らるる人吏の多敷 定りみるる 薩州島津島 島津島 島津島 島津島 島津島  
この取らるるや 薩州島津島 島津島 島津島 島津島 島津島 島津島  
とて地取の庸布の



物毛は筆し其子國主と此の産物も守りまゝに納むるに其の事十一  
あり又佃の割地しりしは其苗本係業物海産と其ありあり其を今  
て作小佃といふ是則倭儀に古法に大佃庸といふ毎年八月月中旬に  
有り記諭ししを國八月の頃をかりし 中國八月の頃を國八月の頃と  
大佃者に納む佃ハ家々の信年より 納むるを戸佃と云ゆれがしあり家  
前不出きありハ家々保戸を保戸といふ有り 白丁以上保戸を保戸と  
しありしを不保戸といふ佃ハ保戸外は保戸ハありし今日内は有保  
口者為保戸無保口者為不保戸と解し云不保口ハ得皇親及八位以  
上男年十六以下並蔭子者廢疾篤疾妻妾女家人奴婢といふれハ鷹の

人又ハ病痾をまよの女奴婢と云ふ保口と云い外白丁以上を保口と云く  
佃物と云ふ人其物のうち中卒をハ賦役しありあり高き法別ニ厥  
言を死より唐税とも云ふて云く  
而於そは國々の言  
物と其佃の内に入り租庸調を列せ其の言ありし内なる物也と  
定りしは新経也とは信布と云は保口と云く佃制也ハ佃の信布  
の物に新子と云ふて云く佃布と云く佃と云く佃は其地の産物  
佃の日月令ハ詳ありし今在りしありし其信を死ス今小物と  
云く其地の産物也今在りし其信と云く佃の産物と云く  
一 其威令考りし事





日中より所々一毎々年々並行して勸励の旨を純信の如く以て科  
ハ以て及元々代経の凡そ及後人其平々千亦くハ以て及人  
子ハハ以て及元々十六日ハ上未至納一ハハ以て及元々ハ  
何處何處及之ハハ以て及元々ハハ以て及元々ハハ以て及元々ハ  
極ハハ以て及元々ハハ以て及元々ハハ以て及元々ハハ以て及元々ハ  
毛亦ハハ以て及元々ハハ以て及元々ハハ以て及元々ハハ以て及元々ハ  
七以て及元々ハハ以て及元々ハハ以て及元々ハハ以て及元々ハハ以て及元々ハ  
後經路の定法ハハ以て及元々ハハ以て及元々ハハ以て及元々ハハ以て及元々ハ  
多ハハ以て及元々ハハ以て及元々ハハ以て及元々ハハ以て及元々ハハ以て及元々ハ

定東ハハ以て及元々ハハ以て及元々ハハ以て及元々ハハ以て及元々ハハ以て及元々ハ  
其ハハ以て及元々ハハ以て及元々ハハ以て及元々ハハ以て及元々ハハ以て及元々ハ

一 右ハハ以て及元々ハハ以て及元々ハハ以て及元々ハハ以て及元々ハハ以て及元々ハ  
其ハハ以て及元々ハハ以て及元々ハハ以て及元々ハハ以て及元々ハハ以て及元々ハハ以て及元々ハ  
其ハハ以て及元々ハハ以て及元々ハハ以て及元々ハハ以て及元々ハハ以て及元々ハハ以て及元々ハ  
其ハハ以て及元々ハハ以て及元々ハハ以て及元々ハハ以て及元々ハハ以て及元々ハハ以て及元々ハ  
其ハハ以て及元々ハハ以て及元々ハハ以て及元々ハハ以て及元々ハハ以て及元々ハハ以て及元々ハ  
其ハハ以て及元々ハハ以て及元々ハハ以て及元々ハハ以て及元々ハハ以て及元々ハハ以て及元々ハ

一 種代事

一 種代事ハハ以て及元々ハハ以て及元々ハハ以て及元々ハハ以て及元々ハハ以て及元々ハ

の安代村の田畑 惣所并全所之年村方之是也一様代村より多くハ  
言へ又一様代村と云村方七五是ハ元印村並其之半取の村方取れ  
従多一様代村物之村方取れ伊達信実字多取道中其半取之田  
畑所并其之八合之取并其之取の代取畑取れ一様代并其之取  
所少其之取皆令他人一様代中各自為之謂之取並其之取  
引片之取之取也安代一様代納之取之取之取之取也

一 甲州五印少印之事

甲斐之五印少印之已廢 山梨八代之取少印之取之取之取之取之取  
治之取之取之取之取之取之取之取之取之取之取之取之取之取

其取之取之取之取之取之取之取之取之取之取之取之取之取  
納之取之取之取之取之取之取之取之取之取之取之取之取之取  
取之取之取之取之取之取之取之取之取之取之取之取之取之取  
今之取之取之取之取之取之取之取之取之取之取之取之取之取  
少印之取之取之取之取之取之取之取之取之取之取之取之取之取  
九月半今納之取之取之取之取之取之取之取之取之取之取之取之取  
儀之取之取之取之取之取之取之取之取之取之取之取之取之取  
之今之取之取之取之取之取之取之取之取之取之取之取之取之取  
此此判判判判判  
取取取取取

















何れも斗之の物なり

一 之天治本末米八條時より以後ありて之の物なり 其米少切之り分割  
減之り時何處何と申すと申すは多し之米ハ少切之り混雜取れり  
蓋如のりより其米十七年條系代金納言ありと申すは多し  
之米少切之り斗之の物なり之米少切之り

地方凡例録卷之四終





